

☆作業日あれこれ

4月の定例作業日は、天候の移ろいが遅れ、雨が残った朝となりました。天気予報では10時頃には回復するとのことで作業を始める頃には雨が止むことになります。この日、当地はお祭りや県議選の最終日と重なり、森の中にいても遠くからそれぞれの音が聞こえてきます。



本モロコの炭火焼き

スタッフには新しい顔が4人、と言っても今までもボランティアで参加したりしていたので、全く知らない顔はいないのですが…観察会の担当は新人の篠原君で、小糠雨が降る中、水辺の林へ移動です。水辺にはササが生えています。節の多いササを途中で節から切り離して再びくっつけどこで切断したかを当てる遊びを体験してもらいました。ササの胞子茎(菌類のキノコにあたる)がツクシで、光合成をして栄養素を生産するのがササで互いに地下茎で繋がっています。水辺の斜面や浅瀬にササが生えていますが、それほどの密度でもありませんし、春先に余りツクシも見かけないようです。ササは酸性土壌が大好きでアルカリ土壌には適しないのですが、ササ本体はカシムに富み枯れて長年堆積するとアルカリ土壌になり、雑草退治で手こずるササも消えるそうです。また肥料分の多い土壌ではササのみが繁茂して子孫を残す必要もないので花にあたるツクシの発生が少なくなるのですが、勢いのないササがまばらに水の中にも生えているこの場所では貧栄養過ぎてツクシを発生させる力もないのではと勝手に考えています。

ササが生えている浅瀬にシジミの貝殻が見えたので観察会はここで脱線、シジミの話になりました。日本にいる大きなシジミは、食用に販売されているヤマトシジミと琵琶湖固有種のセコ(瀬田)シジミ、そして食味が落ちるマシジミです。かつて琵琶湖で海(?)水浴に行った時、湖底の砂地を足で探ると1cm位の黄褐色のセコシジミと考えられるシジミがそれなりに採れたのです。カは家の近くの砂地の水路でシジミを採った覚えがありますが、これはマシジミだったでしょう。ヤマトシジミは汽水域に生息するので、長良川河口堰や宍道湖の閉め切りの時には汽水域に生息するヤマトシジミが漁獲できなくなると問題になりました。この森の水路の浅瀬に生息するシジミは、通常ですとマシジミな

のですが、現在、東京以西ではマシジミはほとんど生息していないという報告があります。これは台湾などから食糧として輸入されたタイワンシジミに取って換わられたからなのです。タイワンシジミは水の汚れにも強く、卵胎生で稚貝を放出するので、親貝は味噌汁の具になり人の胃袋に入ったとしても、稚貝は砂抜きの水に紛れて排水溝に脱出したのです。マシジミが生息していても交雑するとタイワンシジミにしかならず、数年で全てタイワンシジミに置き換わります。この浅瀬のシジミは、蛇堀り名人が森の水辺が整備された時に、隣の農業用排水路で子ども達と捕まえたのが起源と考えられますが、トトロ状態の川底ですからマシジミであることはないでしょう。シジミ類の正確な同定は難しく、あくまで生息環境面からの推測ですが、時に環境問題のシンボルとしても扱われることのあ



森のスタッフ、新人さん4人です

る身近な貝であるシジミを取り巻く問題を、森の水路から考える観察会となりました。

さて作業の方は天気予報通り作業開始頃には雨が上がりましたが、出鼻をくじかれたためか参加者は約30名、一部の予定作業を中止し4班体制での作業となりました。野鳥観察壁の対面の萌芽更新エリアでは、密生してきたササや実生苗などの間引き作業でしたが、このエリアにはマルの大好きな唯一のコジサイが生えており、刈られてはならじと陣頭指揮をしておりました。この萌芽更新区域には近くのイナバナ大木から飛んできた実生苗も生えており、こちらは刈らずに残しています。竹林では篠原君をリーダーに雪で折れた竹を除去していました。作業小屋の前では機械を使った薪割り作業、横では蛇堀り名人が前日手堀りした本モロを炭火で素焼き中です。小屋の中ではバルやヤブカンゾウの下処理中、ベテラン調理長不在でカレーだけのはずだったんですが、今回もアテはたっぷりです。自制のはずが、焼鳥名人と酒杯を重ねたのがいけません。いつものミーティングを終え、皆様が午後の作業に参加されるのをトラ御用達テーブルで見送ることとなってしまいました。

5月25日(水曜日) 週日活动 森の居酒屋は5月11日 午後7時頃～

5月14日(第2土曜日)9時～(遅刻可)

主 催 者 : 遊 林 会

連絡先(遊林会事務局): 滋賀県 東近江市 河辺いきものの森 Tel 0748-20-5211 Fax 0748-20-5210

URL: <http://www.yurinkai.org/>

E-mail: ikimono@e-omi.ne.jp

森のブログは「かわべえブログ」で検索!

今回の通信は連休前に発送せねば！とのことで第4水曜の活動内容を記事にできませんでした。この日の作業は、たまっている伐採枝のチップ処理もしくは刈が多くなる前にやってしまいたい林床管理作業のどちらかの予定です。

☆4月の木ままクラブ

気軽に気ままに木曜日に活動する木ままクラブ。4月は2回の活動を行いました。
4/14 13人 けき広場で密生していたけきの間引きを実施しました。この状態にまで育てるのに10年以上かかりました。
4/21 3人 モジの林およびその周辺で、ウルシの仲間やアオダモ・タノキの幼樹、アキなどを伐採する林床管理作業を実施し、かなりすっきりしました。上にはヤマザクラが咲いていました。
5月はGW中は活動せず、19日のみ活動日です。

☆河辺いきものの森スタッフルーム情報

4月に入り、岸本君が去って篠原君が来てくれました。さらに、今年度は滋賀県緊急雇用創出事業を受託して新事業をスタートするので、この費用で河村さん、井上君、野川さんの3名も加わり、スタッフルームは満員状態となっています。そして満員状態でスタッフは何をしているのかといえば、スタッフの新旧を問わず全員必死で仕事をしています。この森に来て10年を過ぎたものの個人的意見では、「10年仕事してきて、今が一番忙しい」と言えるほどの忙しさです。文字通り、休む間もありません。そんな忙しい日々を過ごして約1ヶ月が経ったところで、新スタッフに自己紹介をしてもらいましょう。

篠原耕平 3月に大学院を卒業して4月から森で働かせていただくことになりました。里山や環境学習のことはまだまだ勉強不足ですが、よろしくお願いします。

河村香菜子 4月から森でお世話になっています。1年前に大学を卒業し、去年は半年ほど北海道に行っていました。文学部出身で森のことはまだまだ素人なので、これから猛勉強していきたいです。よろしくお願いします。

井上竜馬 はじめまして、今春から働かせていただくことになりました。去年・一昨年とインターシップでお世話になりましたが、まだまだ河辺の森のことをよく知りません。周りのみなさんから多くのことを吸収して頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

野川吹雪 去年、半年ほどこちらで働かせて頂いていました。まだ森で道に迷います。がんばります。どうぞよろしくお願いいたします。

以上、みなさんどうぞよろしくお願いいたします。

☆4歳からの森・学・塾 モリイコ！

前述した滋賀県緊急雇用創出事業による今年度の新事業が、このモリイコ！です。事業の詳細い内容は現在ホームページに掲載していますので省略しますが、一言でいえば4歳～小学3年生の子どもたちが1年間に10回以上森に来て、様々な活動をする中で「森が好きな子ども」になってもらおうという事業です。

小さな頃から森に通うことが、子どもたちの心にどんなタネをまいてくれるのか…実施する私たちもとっても楽しみにしています。

今最も忙しいという理由は、この事業の本身を詰めているからです。森のスタッフにとっては今年度の目玉事業となるので、かなり気合いを入れています。子どもたちの期待を裏切らないためにもがんばります。

定員40名ですが、4月23日から募集を初め26日現在で既に14名もの応募を頂いています。募集は5月15日まで、応募多数の場合は抽選となります。事業のスタートは5月28日からです。

緊急雇用創出事業は今年1年限りですが、今年のモリイコ！に大勢の参加があつてうまくいきそうなら、来年度からは遊林会の独自事業としてスタートさせていきたいと考えています。森の中で子どもを育むということに関心のある方、ぜひお子さんを参加させてみませんか。

☆春の室内楽コンサート

今回は5月27日（金）19時から開演です。大阪センチュリー交響楽団改め4月から日本センチュリー交響楽団に生まれ変わったメンバーとその仲間による、今回はトランペットをはじめとした金管楽器5人によるコンサートです。演奏者は全員女性です。どんな音色を聴かせていただけるのでしょうか。チケットは販売開始していますので、お早めにお電話ください。

☆5月29日は「みどりのつどい」

毎年恒例の「みどりのつどい」は、今年も大嵐まつりに合わせて5月29日（日）に開催します。遊林会の出店のお手伝い、よろしくお願いします。

☆5月の作業は…

新緑美しい5月とは言え、今年は花々は遅いです。しかし素晴らしい5月、竹林整備や林床管理作業など、気持ちのいい緑の中で存分に作業を楽しみましょう。

容器やコップは数に限りがあります。食器の持参をお願いします！